

飛鳥学冠位叙任試験（上級編）問題【解答】

1. 『日本書紀』によると、推古天皇は小墾田の宮において75歳で崩御したが天皇在位何年とされている？
A. 36年
2. 593年、飛鳥寺（法興寺）の心柱が建てられた際、蘇我馬子ら100人余りが百済服で参列したと記される平安末期の歴史書は？
A. 扶桑略記ふそうりやくき
3. 天理教岡大教会近くで出土した木簡には649～664年の冠位が書かれていました。その冠位は？
A. 大花下
4. 西暦650年、白い雉が朝廷に献上されました。これを瑞祥とみなし元号を「白雉」と改めたといいます。どこの国からの献上？
A. 穴戸（長門）国
5. 『日本書紀』によると皇極元年（642）12月、舒明天皇の遺体はどこに葬られたとされる？
A. 滑谷岡（なめはざまのおか）
6. 橿原市城殿町所在の古代寺院遺跡。藤原京の時代には、八条大路に面して南門が開いていたと考えられる寺院は？
A. 本薬師寺
7. 飛鳥で「具注曆」の木簡が出土しました。その遺跡はどこ？
A. 石神遺跡
8. 石舞台古墳の被葬者を飛鳥時代の豪族、蘇我馬子とする説を1912年に提唱した歴史学者は？
A. 喜田貞吉きただききち
9. 聖徳太子によって創建された「〇〇精舎」を舒明天皇が百済川畔にうつし「百済大寺」とし、天武期に飛鳥の地に移し「高市大寺」といったとされる「〇〇精舎」とは？
A. 熊凝精舎くまごり
10. 天武天皇の皇子である高市皇子が住んだとされる皇子宮は？
A. 香具山宮
11. 「浅茅原 つばらつばらに もの思へば 故りにし郷し 思ほゆるかも」（『万葉集』3-333）は飛鳥を思う望郷歌と考えられています。この歌の作者は誰？
A. 大伴旅人
12. 牽牛子塚古墳で見ついている棺は、一般的にどの様に呼ばれていますか。フリガナ付で書いて下さい。
A. 夾紵棺（キョウ チョ カン）
13. 『日本書紀』によれば、607年に小野妹子が遣隋使として派遣され、翌年、裴世清と随行者を伴って帰国した事が記されています。何名の随行者と記されている？
A. 12名

14. 和風諡号「息長足日広額尊」を贈られたのは誰？

A. 舒明天皇

15. 『日本書紀』によれば崇峻元年（588）、百済国から僧惠総が仏舍利を献じ恩率首信等を遣し調を進め、それとともに寺工・鑪盤博士・瓦博士・畫工ら技術者計○人を奉ったと記されています。○人か？

A. 8人

16. 『日本書紀』では壬申の乱のとき、大海人皇子方の大伴吹負が急襲して武器を接収した兵庫（武器庫）は何処にあったとされる？

A. ^{おはりだ}小墾田

17. 次の万葉歌と関連が深いと考えられている明日香村内の遺跡はどこ？

柿本朝臣人麻呂の新田部皇子に献れる歌一首 併せて短歌

やすみしし わご大君 高輝らす 日の皇子 しきいます 大殿のうへに ひさかたの
天伝ひ来る 白雪じもの 行きかよひつつ いや常世まで (3-261)

反歌一首

矢釣山 木立も見えず 降りまがふ 雪のさわける 朝楽も (3-262)

A 竹田遺跡

18. 有間皇子が謀反の名において処刑された場所は？

A. 紀伊国 藤白坂

19. キトラ古墳に描かれた天文図は朝鮮半島と密接な関係があり、李氏朝鮮の時代につくられた「○○○○○○之図」と類似するといわれます。この元本は戦乱で大同江に沈んだとされ1395年に復元され現代に伝わっています。「○○○○○○」に入るのは？

A. 天象列次分野

20. 11歳で出家し、高句麗僧惠便に師事し、15歳の時百済に留学した日本人最初の尼僧「善信尼」の父親は？

A. ^{しばたつと}司馬達等

21. 古代の土器の装飾で、土師器の内側を飾る特殊な文様を指す考古学用語は？

A. 暗文（あんもん）

22. 「明日香川 明日谷将見等 念八方 吾王 御名忘世奴」（『万葉集』2-198）

この歌は、明日香皇女が亡くなったことを悲しんだ歌と言われます。誰の作？

A. 柿本人麻呂

23. 聖徳太子によって著されたという『○○○○』は三つの経、^{ゆいま}維摩経・^{しょうまん}法華経・勝鬘経の注釈書といわれるが『○○○○』に入るのは？

A. 三経義疏

24. 『万葉集』は現存する最古の歌集です。編さん当初の原本は現存しませんが、写本という形ですべての歌がそろった、現存最古で鎌倉時代の写本は『○○○○本』（石川武美記念図書館蔵）です。○○○○に入るのは？

A. 西本願寺

25. 古代の裁判と言われる「くがたち」、漢字で書くと？

A. 盟神探湯

26. 乙巳の変後、孝徳天皇即位とともに新しくなった国家体制の中で、国博士となったのは誰と誰？

A. (僧) 旻、高向玄理

27. 百濟は二度にわたって遷都をしました。都が現在のソウルにあった時期を「漢城期」、忠清南道公州市に移った時期を「○○期」、そして最後は忠清南道扶餘に遷都した時期を「泗泚期」という。○○は？

A. 熊津（ゆうしん）

28. 天智9年（670）、全国にわたる最初の戸籍がつくられたといわれます。戸籍の名前は？

A. ^{こうごねんじやく}庚午年籍

29. 数多い万葉歌のなかで、次の歌（1-63）は唯一異国の地（唐）で詠まれたものとされます。作者は？

「いざ子ども 早く日本へ ^{やまと} 大伴の ^{おおとも} 御津の ^{みつ} 浜松 待ち恋ひぬらむ」

A. ^{やまのうえ}山上（臣）^{おくら}憶良

30. 阿倍仲麻呂は遣唐使として唐に渡って立身出世を果たしたが帰国の望みを果たすことなく唐において客死しました。唐の役人として活躍した仲麻呂の中国名は？

A. ^{ちようこう}晁衡

第9回 飛鳥学冠位叙任試験（上級 論述）問題

31. 飛鳥時代（7世紀）の「大宝」以前には3つの元号が使われていました。3つの元号と、それぞれの改元された歴史的背景を説明してください。

（模範解答） 「大化」（645～649）は乙巳の変の後、孝徳天皇が即位して皇太子・左右大臣・国博士・内臣などを任命し、新しい政治体制が出来た時に定められた。その後、一連の政治改革「大化改新」が進められた。「白雉」（650～654）は長門国から白い雉が献上され、祥瑞（めでたいしるし）として孝徳天皇に献上されたことにより改元されたもの。孝徳天皇が難波宮で没するまで用いられた。「朱鳥」（686）は病篤い天武天皇の平癒を祈願して定められた。改元と同時に天皇の宮が飛鳥浄御原宮と命名され、神への奉幣や寺院での法要が行なわれた。

32. 国の重要文化的景観に選定されている「奥飛鳥の文化的景観」について、概要を説明してください。重要な構成要素を3つ以上あげること。

（模範解答）

2011年9月選定。奥飛鳥の文化的景観は、明日香村大字稲淵・栢森・入谷の全域と祝戸・阪田の一部、計565.8haを範囲とする。奥飛鳥と呼ばれる飛鳥川上流域においては、飛鳥川沿いに展開する河岸段丘上や山裾、緩斜面上に特徴的な集落や棚田が展開し、それを維持してきた農業の仕組みが存在する。地形に即して営まれてきた居住のあり方と、農業を中心とした生業のあり方を示す、価値の高い文化的景観とされる。

奥飛鳥の文化的景観は、飛鳥川、集落、農地、森林域からなり、重要な構成要素として、飛鳥川飛び石・男綱・女綱・稲淵の棚田およびその石積み・八幡だぶ・女淵・栢森の洗い場・飛鳥川上坐宇須多伎比売命神社・加夜奈留美命神社・大仁歩神社・南淵請安先生の故地・南淵請安先生の墓・竜福寺層塔・飛鳥稲淵宮殿跡があげられている。

奥飛鳥地域では棚田オーナー制度、河川や歩道の整備、特産品の研究開発、遊休農地対策などの取り組みが行われ

ている。

奥飛鳥地域の最初の記録は皇極天皇元年（642）とされる。

飛鳥川源流域では森林が卓越し、植林地の中に集落と農地が営まれている。地域ではハギやヤマブキなど万葉植物も植生し、豊かな生態系がある。河岸段丘、山裾、斜面を切り開いて集落や農地を営んでおり、石材を用いた石積みや、急傾斜の茅葺き屋根と緩傾斜の瓦屋根を組み合わせた大和棟の民家に特徴があり、独特の集落景観を形成している。棚田には井手によって水が供給されており、現在も管理されている。飛鳥川に降りる階段を備えたアライバが現在も機能している。盆迎え・盆送りや綱掛神事など、飛鳥川と強く結びついた生活が営まれている。

文化的景観は、「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」（文化財保護法第二条第1項第五号より）とされ、風土に根ざして営まれてきた人々の生活や生業のあり方を表す景勝地、自然や風土と共生する中で育んできた原風景といえるもの。文化的景観の中でも特に重要なものとして文部科学大臣が選定したものが「重要文化的景観」となる。

（ポイント）奥飛鳥の範囲あるいは対象地域について。地形に適応して棚田や石垣が造られ、生業が営まれていることによって集落の特徴的な景観が形成されていること。日常生活や神事が飛鳥川と強く結びついていること。構成要素を規定数あげる。重要文化的景観の定義は書いていなくても良いが、あれば加算。

33. 壬申の乱（672年）後、大津京から明日香に都を戻して即位された天武天皇ですが、その後、天皇は明日香から他の土地へ遷都する気はあったのでしょうか？無かったのでしょうか？どちらか根拠を示してください。

（模範解答）

遷都の希望はあった。

『日本書紀』によれば、天武11年（682年）三野王らを新城に派遣して地形調査。「都をつくらむとす」とある。天武12年には「都城、宮殿は二、三カ所あったほうがいい、まず難波に都を造ろう」と宣言された。複都制、陪都、副都制

天武13年、三野王らを信濃国へ派遣して地形調査。「是の地に都をつくらむとしたまへるか」と書紀に記されている。

以上の記録から見ると、天武天皇は明日香からどこか違う地に都を遷したいと思っていたことがうかがえる。

34. 持統天皇は在位中に31回も吉野宮に行幸しています。この頻繁な吉野行幸の理由について、考えられるところを述べてください。

（模範解答）

壬申の乱後の天武8年（679）、天武天皇と鸕野皇后（持統）は6皇子とともに吉野宮に行幸し、盟約を交わしました。これは草壁皇子の皇位継承権を確認する意味をもったとされています。しかし、その草壁は持統3年（689）に早世します。この前後から持統が頻繁に吉野宮に行幸するのは、かつての盟約を全官人に想起させることで、草壁の遺児軽皇子への皇位継承について理解を得るためであったと思われます。これ以外に、亡夫天武との思い出の地である吉野を回想するため、吉野の景勝を賞するため、吉野の神に風雨の順調を祈るため、吉野の聖水で禊を行うため、などという理由も考えられます。